

分野(領域)	専門分野 I	科目名	基礎看護学実習
単位(時間)	3 単位 (135 時間)	実習時期	1 年次 前期～後期
実習名 (時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院見学実習 (4 時間) ・ 療養見学実習 (6 時間) ・ 人間関係基礎実習 (30 時間) ・ 生活援助基礎実習 (35 時間) ・ 看護過程基礎実習 (60 時間) 		
<p>< 科目設定理由 ></p> <p>看護への関心を高め、看護の役割が考えられるように看護活動の基礎を実際の場で経験する必要がある。科学的根拠に基づき、その人に適した日常生活援助が実践できる基礎的能力を養い、専門分野 II 及び統合分野実習の基礎とする必要がある。</p> <p>< 実習目的 ></p> <p>生活者である看護の対象を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな面が統合された存在として理解する。科学的根拠に基づき、その人に適した日常生活援助ができる基礎能力を養う。</p> <p>< 実習内容 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院見学実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目的 病院の環境を理解する。 2) 実習目標 <ol style="list-style-type: none"> ① 外来を受診する対象者を取り巻く環境が理解できる。 ② 対象者への安心・安全・安楽の工夫を知る。 2. 療養見学実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目的 患者との初歩的な人間関係の体験を通して、入院患者と取り巻く環境を理解する。 2) 実習目標 <ol style="list-style-type: none"> ① 病院における患者の療養環境を知る。 ② 入院患者の生活と心理を知る。 ③ 患者と良い関係性を築くための基本的態度を取ることができる。 3. 人間関係基礎実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目的 受診する患者と行動を共にし、コミュニケーションをとることで患者の身体面・精神面・社会面を知り、看護者としてのかかわりの基本を学ぶ。 2) 実習目標 <ol style="list-style-type: none"> ① 患者にとって安全で、安心して受診できる環境とするために何が必要か理解できる。 ② 診断過程・治療過程にある患者の特徴が理解できる。 ③ 自己の傾向を知り、相手に与える影響を理解する。 			

4. 生活援助基礎実習

1) 実習目的

入院生活における患者を取り巻く環境を理解し、患者に合った日常生活援助技術に気づくことができる。

2) 実習目標:

①患者に対して日常生活援助が安全安楽に実施できる。

②患者との関係構築ができる。

5. 看護過程基礎実習

1) 実習目的

生活者である看護の対象を理解し、対象に合った看護を具体的に実践できるための思考過程がわかる。

2) 実習目標

①様々な状況にある対象を理解し、健康・生活上の課題を把握し、対象に合った看護過程の展開ができる。

②看護師としての姿勢を学ぶ。

<実習の進め方>

- ・実習前に学内で実習の説明を受ける。
- ・要綱に基づき事前学習を行い、指示された学習についてはレポートを提出する。
- ・実習の方法については要綱参照

<受講要件>

病院見学実習 : なし

療養見学実習 : なし

人間関係基礎実習 : コミュニケーション・指導技術を受講していること

生活援助基礎実習 :

・人間関係基礎実習でのプロセスレコード検討会に参加していること

・シーツ交換、身体の清潔、フィジカルアセスメントの看護技術試験に合格していること

看護過程基礎実習 : 生活援助基礎実習を履修していること

<テキスト・参考文献>

実習要綱参照

<評価方法>

- ・看護過程基礎実習で評価する。
- ・実習評価表に基づいた臨地実習指導者の評価、出席点を合計する。

分野（領域）	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護学実習
単位（時間）	6単位（270時間）	実習時期	2・3年次 前期～後期
実習名（時間）	成人看護総論実習（60時間） 周術期看護実習（60時間） 急性期看護実習（60時間） 人生の最終段階看護実習（30時間） 慢性期看護実習（45時間） 自己管理看護実習（15時間）		
<p><科目設定理由></p> <p>多くの疾患は成人期に発症し、慢性に経過していくものが多いため、成人期における対象の多様な生活状況・健康・障害に対する看護を経験することで判断力、実践力を養い、対象の生活を支援するための看護を学ぶ必要がある。</p> <p><実習目的></p> <p>成人各期の特徴をとらえ、対象が持つ健康問題を理解し、家族を含めた健康の保持増進、疾病予防、疾病からの回復、リハビリテーションを支える看護を展開する基礎的能力を養う。</p> <p><実習内容></p> <p>1. 成人看護総論実習</p> <p>1) 実習目的</p> <p>経過各期にある対象者を理解し、看護活動を実践する基礎的能力を養う。</p> <p>2) 実習目標</p> <p>①経過各期にある患者のケアを通して患者の健康状態を把握し、対象者と家族が自ら生活をコントロールするために必要な看護過程の展開ができる。</p> <p>②患者に行われる検査・処置・治療を通して必要な看護援助を考える。</p> <p>③患者及び家族は、それぞれの価値観をもち、自立・自律した存在であることを尊重し、人間としての尊厳を重んじる態度がとれる。</p> <p>2. 周術期看護実習</p> <p>1) 実習目的</p> <p>手術療法を受ける患者と家族を全人的に理解し、術前の身体的・精神的看護の重要性と術後の回復過程を支える看護を学ぶ。</p> <p>2) 実習目標</p> <p>①術後のリスクを予測した術前看護が理解できる。</p> <p>②手術による機能的、器質的身体侵襲を理解し、術後合併症を最小にとどめるための援助が理解できる。</p> <p>③退院後の日常生活を見据えた援助を考えることができる。</p> <p>④術前・術中・術後の継続看護について理解できる。</p> <p>⑤手術室における患者の安全管理について理解できる。</p>			

3. 急性期看護実習

1) 実習目的

激しい体内変化や生命に危険を及ぼす健康問題を抱える患者に対して生命維持と苦痛の緩和への看護の実際と家族への援助を学ぶ。

2) 実習目標

- ①救命救急治療を必要とする患者と家族を理解する。
- ②救命救急治療を受ける患者・家族への看護援助を学ぶ。
- ③救急医療の連携について学ぶ。

4. 人生の最終段階の看護実習

1) 実習目的

人生の最終段階にある患者を全人的に理解する視点を学び、「その人らしさを支える援助」とは何かを考察できる。さらに家族援助の必要性を理解し、悲嘆への援助を学ぶ。

2) 実習目標

- ①人生の最終段階にある患者を全人的にみる視点を学び、そこに存在するトータルペインについて知る。
- ②人生の最終段階にある患者の症状コントロールの必要性と方法を学ぶ。
- ③人生の最終段階にある患者にとっての日常生活の意味を考え、「その人」に合わせた援助を知る。
- ④家族の予期的悲嘆を理解し、家族ケアの必要性を学ぶ。
- ⑤チームアプローチの必要性とチームの中での看護の役割を理解できる。
- ⑥自己の死生観を養う。

5. 慢性期看護実習

1) 実習目的

外来にて診療を受ける患者および家族を理解し、在宅で生活するために必要な看護を学ぶ。

2) 実習目標

- ①外来看護の特徴を学ぶ。
- ②診察・検査・治療が安全に受けられるための援助が理解できる。
- ③外来における継続看護の必要性がわかる。

6. 自己管理看護実習

1) 実習目的

継続して透析療法を受けている自己管理が必要な患者への援助について学ぶ。

2) 実習目標

- ①透析療法を受けている患者について理解する。
- ②血液透析が安全に行われるための看護がわかる。
- ③透析療法を受ける患者の生活を支えるための援助がわかる。

<受講要件>

- ・基礎看護学実習の単位を取得していること。
- ・成人看護学概論、成人保健を受講していること。

<テキスト・参考文献>

実習要綱参照

<評価方法>

成人看護総論実習及び周術期看護実習で評価する。
実習評価表に基づいた臨地実習指導者の評価と出席点を合計する。

分野（領域）	専門分野Ⅱ	科目名	老年看護学実習
単位（時間）	4単位（180時間）	実習時期	1年次 前期 2年次 前期～後期
実習名（時間）	老年看護基礎実習（6時間） 高齢者生活支援実習（54時間） 老年看護実習（120時間）		
<p><科目設定理由></p> <p>高齢社会を迎え、老化や様々な疾患による身体機能の低下、障害を持つ高齢者が増えている。そのような中、人生の最終段階にあり生きてきた過去を含め、尊厳を持った援助が必要と考える。そのため、看護の対象として老年看護学実習を行う必要がある。</p> <p><実習目的></p> <p>老年期の特徴を捉え、地域や施設・病院で生活する高齢者の健康問題について理解し、対象のニーズに応じた看護援助を実践する基礎的能力を養う。また、高齢者の健康を支える社会資源の活用、地域や施設・病院における関係機関・関係職種との連携について学び、看護師の役割を理解する。</p> <p><実習内容></p> <p>1. 老年看護基礎実習（1年次）</p> <p>1) 実習目的</p> <p>地域で生活する高齢者を理解し、高齢者と接する姿勢を養う。</p> <p>2) 実習目標</p> <p>①老人福祉センター等を利用する対象の特徴が理解できる。 ②高齢者の生活について知る。 ③施設の果たす役割が理解できる。</p> <p>2. 高齢者生活支援実習（2年次）</p> <p>1) 実習目的</p> <p>加齢に伴う変化や健康問題を抱えながら生活する高齢者の特徴を知り、その特徴に応じた生活支援の実際を学ぶ。また、介護老人保健施設・指定介護老人福祉施設の機能と保健・医療・福祉連携と看護の役割を学ぶ。</p> <p>2) 実習目標</p> <p>①加齢に伴う変化や健康問題を抱えながら生活している高齢者の特徴を理解する。 ②高齢者の暮らしを維持するための支援について理解する。 ③高齢者と接する姿勢を身につける。</p> <p>3. 老年看護実習（2～3年次）</p> <p>1) 実習目的</p> <p>老年期にある患者を理解し、患者の状態にあわせた看護について学ぶ。</p> <p>2) 実習目標</p> <p>①老年期にある患者を理解できる。 ②受け持ち患者の疾患に伴う健康問題をアセスメントし、看護計画・実施・評価する過程を理解できる。</p>			

<受講要件>

老年看護基礎実習 : なし

高齢者生活支援実習 : 老年看護学概論、老年保健を受講していること。

老年看護実習 : 老年看護学概論、老年保健を受講していること。

<テキスト・サブテキスト>

実習要綱参照

<評価方法>

2～3年次の老年看護実習での2か所の評価点を平均した点数とする。

実習評価表を基にした臨地実習指導者の評価と出席点を合計する。

分野（領域）	専門分野Ⅱ	科目名	小児看護学実習
単位（時間）	2単位（90時間）	実習時期	1年次 後期 3年次 前期
実習名（時間）	小児看護基礎実習（30時間） 小児看護実習（60時間）		
<p><科目設定理由></p> <p>絶えず成長発達を遂げている小児の特徴を踏まえ、その成長発達段階に応じた看護を理解するために小児看護学実習を行う必要がある。また母性の健康との関連や小児期の健康の関連についても理解する必要がある。</p> <p><実習目的></p> <p>成長発達段階にある小児と家族の特徴を理解し、健康の保持・増進、疾病の回復のための看護を展開する基礎的能力を養う。</p> <p><実習内容></p> <p>1. 小児看護基礎実習（1年次）</p> <p>1) 実習目的</p> <p>健康な小児の成長・発達を理解し、保育の実際を通して成長発達の助成について学び、看護に応用できる能力を養う。</p> <p>2) 実習目標</p> <p>①子どもの成長発達及び個別性を理解できる。 ②子どもが生涯にわたって生きていく力の基礎を育てるかかわりを学ぶ。 ③子どもが遭遇しやすい事故と安全対策・指導・環境整備について理解する。</p> <p>2. 小児看護実習（2～3年次）</p> <p>1) 実習目的</p> <p>健康問題が小児とその家族に及ぼす影響を理解し、成長発達段階、健康状態に応じた看護が、計画、実施できる基礎的能力を養う。また、小児が健やかに育つための援助について学ぶ。</p> <p>2) 実習目標</p> <p>①健康問題を持つ小児と家族の特徴が理解できる。 ②受け持ち患児の健康問題をアセスメントし、看護を計画、実施、評価できる。 ③小児外来の看護の実際を知る。 ④小児看護の役割が理解できる。</p>			
<p><受講要件></p> <p>小児看護基礎実習：小児看護学概論の講義を履修していること。 小児看護実習：基礎看護学実習単位取得及び小児看護学概論、小児保健の講義を履修していること。</p>			
<p><テキスト・参考文献></p> <p>実習要綱参照</p>			
<p><評価方法></p> <p>小児看護実習において実習評価を行う。 実習評価表に基づいた臨地実習指導者の評価と出席点を合計する。</p>			

分野（領域）	専門分野Ⅱ	科目名	母性看護学実習
単位（時間）	2単位（90時間）	実習時期	3年次 後期
実習名（時間）	母性看護実習（90時間）		
<p><科目設定理由></p> <p>生命や性を慈しみ、次世代の誕生を育むとともに、妊娠・分娩・産褥や女性生殖器疾患等に対する看護を理解するため、母性看護学実習を行う必要がある。</p> <p><実習目的></p> <p>女性のライフステージ各期の特徴を捉え、妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族や女性生殖器疾患を持つ対象を理解し、ウェルネスな視点を含めた看護を展開する基礎的能力を養う。</p> <p><実習内容></p> <p>1. 母性看護実習</p> <p>1) 実習目的</p> <p>妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族を理解し、ウェルネスな視点を含めた看護を展開する基礎的能力を養う。また、対象が新しい生命を産み育てることを安心して喜びと感じるための安全な看護実践能力を養う。</p> <p>2) 実習目標</p> <p>①妊娠期の母体の身体的・心理的变化が理解できる。</p> <p>②妊婦が健全な経過をたどるための保健指導が理解できる。</p> <p>③妊娠・出産・産褥・育児の一連の流れと看護の継続性を理解する。</p> <p>(1)妊娠・分娩の経過を理解し、観察の視点と援助の実際を理解する。</p> <p>(2)褥婦及び新生児の正常と異常の経過の理解を深め、援助を理解する。</p> <p>④母子関係確立に向けての援助と母親役割適応への援助を理解する。</p> <p>⑤母児の生活を継続して援助するために、地域社会や地域関連機関との連携の必要性を理解する。</p>			
<p><受講要件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護学実習の単位を取得していること。 ・母性の病態論を受講していること。 ・新生児への援助技術のチェックを受け合格していること。 			
<p><テキスト・参考文献></p> <p>実習要綱</p>			
<p><評価方法></p> <p>実習評価表に基づいた臨地実習指導者の評価と出席点を合計する。</p>			

分野（領域）	専門分野Ⅱ	科目名	精神看護学実習
単位（時間）	2単位(90時間)	実習時期	3年次 前期
実習名（時間）	精神看護実習（90時間）		
<p><科目設定理由></p> <p>あらゆる発達段階にある対象者の精神面の健康と精神面に健康問題を持つ人に対する看護を学ぶため、精神看護学実習を行う必要がある。</p> <p><実習目的></p> <p>精神に健康問題を持った対象の症状・状態が社会生活に影響していることを理解し、社会復帰に向けての支援について理解する。また、その家族の心理を学び、対象及び家族が地域で生活できるように支援する方法を学ぶ。看護者自身が対象者への関心を示し、他者理解と看護者である自己理解を学ぶ。</p> <p><実習内容></p> <p>1. 精神看護学実習</p> <p>1) 実習目的</p> <p>精神を障害された患者及びその家族の理解を深め、精神障害が患者の生活行動に及ぼしている影響を把握し、看護を実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>2) 実習目標</p> <p>①精神疾患を持つ対象を理解することができる。</p> <p>②精神疾患を持つ対象の生活過程にあった看護の展開を学ぶ。</p> <p>③援助過程をとおして自己洞察し、患者-看護師の治療的関係を理解する。</p> <p>④治療の場としての病院環境、生活者である患者を取り巻く社会生活環境を理解し、チームにおける看護師の役割を学ぶ。</p>			
<p><受講要件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 老年・成人看護実習を1/3以上履修しておくこと。 ・ 精神看護学概論、精神保健、精神臨床の基礎、精神疾患を持つ患者の看護を受講しておくこと 			
<p><テキスト・参考文献></p> <p>実習要綱参照</p>			
<p><評価方法></p> <p>実習評価表に基づいた臨地実習指導者と教員の評価、出席点を合計する。</p>			

分野（領域）	統合分野	科目名	在宅看護論実習
単位（時間）	2単位（90時間）	実習時期	3年次 前期
実習名（時間）	地域支援実習（31.5時間） 地域保健実習（26時間） 在宅看護実習（32.5時間）		
<p><科目設定理由></p> <p>看護の対象である人間の生活の場は地域であり、地域における疾病予防や健康の増進における看護の実際を理解するとともに、在宅で療養する対象への看護の実際について理解するため、在宅看護実習を行う必要がある。</p> <p><実習目的></p> <p>地域で生活する個人、集団の健康を増進し、QOLを向上させるための看護活動を学ぶ。地域のケアシステムにおける看護の役割を理解するとともに、システムが機能するために必要な他分野との連携を理解する。在宅療養者への看護について理解する。</p> <p><実習内容></p> <p>1. 地域支援実習</p> <p>1) 実習目的</p> <p>地域で生活する個人・集団の健康の保持・増進を目指した保健所の広域的・専門的・技術的な活動を理解する。</p> <p>2) 実習目標</p> <p>①地域保健活動の企画・調整・指導機関としての保健福祉事務所の機能と役割を理解する。</p> <p>②保健所保健師が果たす役割と実際の活動を理解する。</p> <p>2. 地域保健実習</p> <p>1) 実習目的</p> <p>地域で生活する個人・集団の健康の保持・増進を目指した市町村の役割と地域に密着した保健活動の実際を理解する。</p> <p>2) 実習目標</p> <p>①地域保健活動の実施機関としての市町村の役割を理解する。</p> <p>②地域のヘルスケアニーズのマネジメントと、地域住民が自ら健康問題に取り組むための保健活動を通し、市町村保健師の役割と活動の実際を理解する。</p> <p>③家庭訪問における市町村保健師の役割と活動の実際を理解する。</p> <p>3. 在宅看護実習</p> <p>1) 実習目的</p> <p>在宅看護における訪問看護ステーションの役割を理解する。また、地域で生活しながら療養する人々あるいは障害を持ちながら生活する人々とその家族を理解し、QOL向上のための援助を学ぶ。</p> <p>2) 実習目標</p> <p>①訪問看護ステーションの機能と在宅看護における役割を理解する。</p> <p>②地域で生活しながら療養する人々あるいは障害を持ちながら生活する人々と家族を理解し、そのニーズに合わせた援助を学ぶ。</p> <p>③地域で生活する療養者を支えるために必要な社会資源の活用と関係機関との連携を学ぶ。</p>			

< 受講要件 >

- ・ 公衆衛生学の単位を取得しておくこと
- ・ 在宅看護概論、在宅看護の基礎を履修しておくこと
- ・ 老年・成人看護実習を1/3以上履修しておくこと。

< テキスト >

実習要綱参照

< 参考文献 >

実習要綱参照

< 評価方法 >

在宅看護実習で実習評価表に基づいて臨地実習指導者の評価と出席点を合計する。

分野（領域）	統合分野	科目名	看護の統合と実践実習
単位（時間）	2単位（90時間）	実習時期	3年次 後期
実習名(時間)	看護の統合と実践実習（90時間）		
<p><科目設定理由> 基礎分野から専門分野まで学んだ知識と技術の統合の場として、看護の統合と実践実習を行う必要がある。</p> <p><実習目的> 知識・技術・倫理観を統合し、あらゆる状況に対応できる判断力、看護実践能力を養う。看護マネジメントの実際を学び、チームで協働して看護を提供する大切さを理解し、今後組織の一員となるための自覚を持つ。</p> <p><実習内容> 1. 看護の統合と実践実習 1) 実習目的 知識・技術・態度を統合して看護実践力を身につける。 2) 実習目標 ①複数患者の様々な状況に応じた判断能力を養う。 ②チームの中で果たす役割を認識し、主体的にメンバーシップをとる姿勢を養う。 ③看護をマネジメントする基礎的能力を養う。</p>			
<p><受講要件> ・領域別実習を2/3以上履修しておくこと。 ・「夜間実習」「管理実習」「複数受け持ち実習+シャドウイング実習」はそれぞれに学則規定通りの（2/3以上）出席を必要とする。（評価要件）</p>			
<p><テキスト> 実習要綱参照</p>			
<p><参考文献> 実習要綱参照</p>			
<p><評価方法> 実習評価表に基づいた臨地実習指導者と教員の評価、出席点を合計する。</p>			